

## 《Bicycle Glance Meeting》

自転車目線で水惑星地球の未来を考えよう！

I think about the future of the water planet earth in a bicycle glance !

Course Create+転遊研

# 工事中 ブームから文化へ！ Bike is Good!

**サイクリングネットワーク・・・「サイクリング」とは、レースを含むスポーツサイクリング全般のこと！**

しかし日本では、レースは競技、サイクリングは自転車旅と別物のように語られ、ネットワーク機能を有していません。  
そのため「繰り返される自転車ブーム」の遠因になっていると思われます。

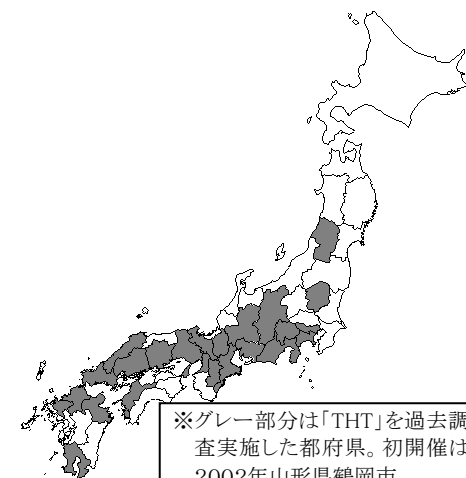
**春需でソフトを！・・・春需に合わせてユーザーに「自転車の乗り方や楽しみ方」を伝えること！**

800万台とも言われる日本の自転車販売台数の大半が売れる「春需」に合わせてソフトを提供出来れば理想的です。  
しかし、レース、ツーリング、スクールを充実させ、日本全国機会均等に行わないと効果がありません！

### ◆ 企画提案第一稿・改 ◆

- ブームから文化へ・・・・・・・・・・・・・・・・①
- Bike is Good!**・・・・・・・・・・・・・・・・②
- サイクリングネットワーク・・・・・・・・・・・・③
- バイシクルランス三本柱・・・・・・・・・・・・④
- 春需でソフトを！・・・・・・・・・・・・・・⑤
- ご協力をお願い・・・・・・・・・・・・・・⑥

Course Create 2015/05/09



※グレー部分は「THT」を過去調査実施した都府県。初開催は2002年山形県鶴岡市。



## ブームから文化へ



レジャーブームを背景にした昭和30年代の第一次ブームでは、ランドナー(小旅行車)が主流で、正にサイクリングブームでした。その後の二次、三次、四次では、輪行車、ファニーバイク、マウンテンバイクがそれぞれ台頭しました。

そして京都議定書を契機に始まったとされる、第五次の平成エコ系自転車ブームでは、小径車、クロスバイク、ロードレーサーと幅広く親しまれています。

しかし、繰り返される自転車ブームは、常に車種(ハード)が先行する形で進むため、自転車走行環境整備の必要性を訴える頃には収束しています。

それはソフトも同じで、ツーリングにしても、レースにしても、そのブーム毎のハードに対して、乗る場所の提供を目的としたイベントが実施されますが、欧米のようなスポーツサイクリングには今一步、今三步のところまで停滞しています。

自転車には、日常利用とスポーツ利用という二面性があります。そこには見えない日本の事情があるようで、ハードやソフトだけでなく、インフラやハートの問題も含め、自転車市民権の獲得や、自転車文化の定着には至っていません！

目的はいたってシンプル。  
自転車市民権(自転車文化)と言う山に登ることです。しかし、中腹までは簡単でも、そこから厳しさを増します。  
たかが自転車。されど自転車。自転車は自転車です。

これは、登頂ルートのひとつの提案です。





## Bike is Good !



自転車の良さや普遍性は誰もが認めるところです。

但し、日常利用でもスポーツ利用でも十人百色の利用目的があり、自転車多様性を探究する登頂ルートもあります。また、リアルロードレースの実施を含む自転車ソフトの充実を目指す登頂ルートもありますが、どれも自転車関係者だけでは解決できない課題を多く抱えています。

そう言った自転車走行環境整備には、ツーリング、レース、イベントの連携に加え、日常利用者の共感も得なければ先に進めません。

人と大地の間に在る自転車。人の力を増幅するカラクリはエネルギー消費も加速するため、空気抵抗や水分補給など、他のジャンルに先駆けて課題としてきました。

つまり「自転車目線」とは、行動範囲の拡大で、水や空気や平和にも敏感になるということです。その意味で増幅率の大きいスポーツ車には、走行マナーの模範行動が求められます。

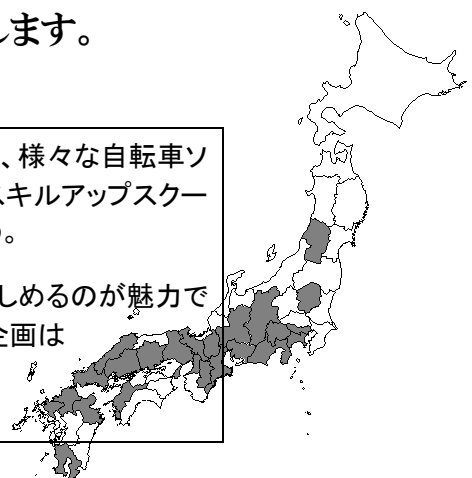
しかし、十人百色の利用者に訴えるのは至難の業です。

そこで、「レース+ツーリング+スクール」を併催するバランスの取れた総合イベントを各地で実施するのはどうでしょう？  
そして、地域貢献も視野に入れたヨーロッパ型サイクリングクラブが運営するようにします。

**ヨーロッパ型サイクリングクラブ・・・** ショップ・ユーザー・地域が三位一体となった、スクールからレーまで、様々な自転車ソフトを守備範囲とするサイクリングクラブ。スポーツサイクリングでは、子供の成長に合わせたサイズを揃えて年代別スキルアップスクールを行い、日常利用では、ルール・マナーの啓蒙活動や初心者対象サイクリングや自転車走行環境メンテナンスも行う。

**奥座敷型と地産地消型・・・** 自転車は自由な移動の道具です。そのため、市街地や郊外を問わず自由に楽しめるのが魅力です。もちろん個人でも楽しめますが、走行環境や街道風景は積極的にメンテナンスする必要があります。サイクリング企画は車種と目的を掛け合わせると無限ですが、地元を楽しむか遠征先を楽しむかに大別できます。

つまり、ヨーロッパ型サイクリングクラブ同士の交流が、自転車文化そのものと考えます。





## サイクリングネットワーク



いきなりの完成形には無理があります。そこで過去の経験から、MTB6時間耐久レースと3種のマップリーディングを組み合わせた「バイシクルグランズミーティング」を提案し、サイクリングネットワークの必要性を訴えたいと思います。

交通環境を地域と共に自転車目線で考えるイベントが、MTB6時間耐久レースではありません。

より多くの場所で開催が可能で、しかもサイクリングクラブが主管できる内容だからです。

駅伝的なチーム対抗は、専用計測システム導入で、日本発世界基準の感動ゲームにも成り得ます。

但し、自転車ファンが交流し、その楽しさをより多くの人に伝える部分は、補完企画に任せます！

では補完企画のツーリングメニューとはどんな内容が良いのでしょうか？

それは、自転車目線で他者との交通環境をバランス良く考えることができる、走り出したら自己責任が前提で、

一般道の適正利用範囲で行う、ツーリングコンペティションだと思います。

そして、街道(スポーツ車)、山道(MTB)、町の中(一般車)と3種類の“道”で実施することが重要です！

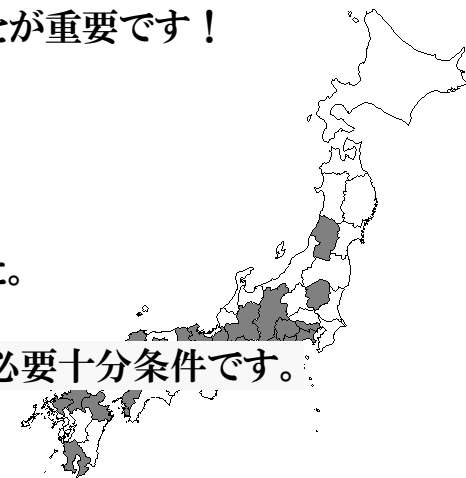
過去に、中級者・上級者向けのイベントを提案する中で、

日常利用との接点の必要性を感じ、

シマノバイカーズやサイクルエイドジャパンに係ることで、

「自転車走行環境整備」や「自転車ソフトの標準化」という言葉に出会いました。

これらの課題をクリアするには「春需でソフトを！」を取りまとめられる“レベル”のネットワークが必要十分条件です。





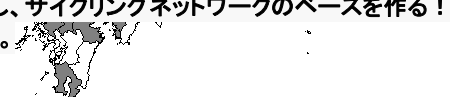
# バイシクルグランズ三本柱



レース+ツーリング型MTB総合イベント「シマノバイカーズフェスティバル」の30周年記念企画を考える中で、「MTBの由道走行」や「スタッフの育成」と言った、  
 単独イベントでは解決できない課題が浮き彫りになりました。  
 その課題解決の秘策が「バイシクルグランズミーティング」で、下記の3本柱の並行作業が求められます。

	【【シマノバイカーズフェスティバル】】	【【バイシクルグランズミーティング】】	【【ヨーロッパ型サイクリングクラブの実証実験】】
2015年	※耐久レース地区代表参加費無料招待 #25●7月25-26日	《企画調整2016/ミニマムの呼び掛け》 《企画調整2017~2018/ブロックへの呼び掛け》	立川(立川競輪場)/甲信(境川競技場) 奈良(奈良競輪場)/山口(防府競輪場)
2016年	※地区予選として実施(4時間耐久) #26●7月00-00日 ★7月のSBFで翌年の概要発表!	★1月に2016年の概要発表!(3月にセレモニー) 3月~7月に地区大会(会場数任意) 8月にブロック大会(東日本/中日本/西日本) 9月に決勝大会(関東周辺)	立川プラン...たちかわ創造舎のサイクルステーションを活用して、当企画全体の事務局の設置を検討!(サイクリストライセンス、スタッフスクール)
2017年	※ブロック大会として実施(6時間耐久) #27●7月00-00日	16秋~17初夏に地区大会(会場数任意) 7月~8月にブロック大会(5~8会場) 10月に決勝大会(関東周辺) ★7月~8月のブロック大会で翌年の概要発表!	甲信プラン...諏訪、富士見、甲府、富士五湖を中心に奥座敷型のサイクリングフィールドを整備する。(MTBリパティフィールド、信州ブルベ)
2018年	※ブロック大会として実施(6時間耐久) #28●7月00-00日	17秋~18初夏に地区大会(会場数任意) 7月~8月にブロック大会(8会場) 10月に決勝大会(関西周辺) 《企画調整2019~2020/全国への呼び掛け》	奈良プラン...奈良県は既にサイクリング環境整備を進めており、さらに連携を深めて、関西圏の拠点とする。(関西ディアゴナール)
2019年	※2年跨ぎ企画の地区予選として実施 #29●7月00-00日	★2018年12月に2019~2020年の概要発表! 19春~20冬に地区大会(47都道府県)	山口プラン...維新150周年企画を契機に地産地消型組織を立ち上げ、隣県と連動したモデルケースを实践。(THT26◆毛利チャレンジトーナメント)
2020年	※2年跨ぎ企画の決勝大会として実施 #30周年記念●7月00-00日	20年初夏にブロック大会(8会場) 7月のSBFで決勝大会	2020年に関係省庁も含めた完成形を目指すのではなく、次世代への繋ぎ役として、 三位一体型サイクリングクラブの可能性を探る!

シマノバイカーズ型総合イベントのノウハウをJCA・JCF・SBAAで共有し、メーカー冠イベントに還元。そして、E型サイクリングクラブの趣旨に賛同する仲間を探し、サイクリングネットワークのベースを作る！  
 その趣旨説明のための草の根活動的現場ミーティングなので、植物が育つ地球をイメージしたネーミングを考えました。





## 春需でソフトを！



自転車文化と言う山に登るには「自転車多様性探求ルート」と「自転車ソフト充実ルート」があると書きましたが、「バイシクルグランスマーケティング」は、その2つを足して2で割った『秘ルート』です。

そして2020年までにアタックキャンプに相当する「春需でソフトを！」が、必要条件であることを共通認識としたいと思います。

2015年SBFに向けて、既存のMTB耐久レースやXCレース主催者へアプローチしつつ、メーカーや関係者へ企画趣旨説明を行うアイドリング期間。

2016年SBFを地区大会のひとつに据える「プレシーズン」として、2015年SBF前後から企画調整に入り、年内に実施概要を固める。

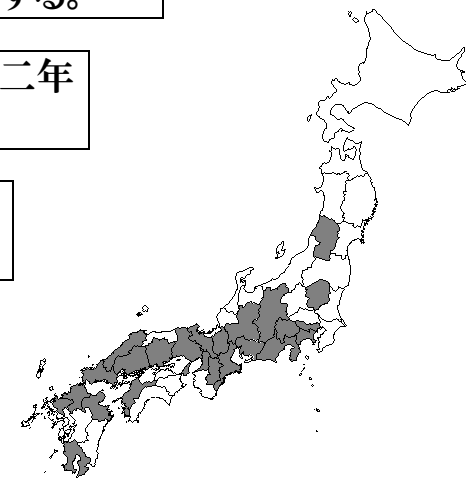
プレシーズンの企画調整と合わせて、三位一体型サイクリングクラブの可能性を東西4エリアで探りますが、2019年のサミットや2021年以降の二枚重ね運営の前提となります。

2017年SBFをブロック大会のひとつに据え、16年秋～17年初夏に地区大会を実施する「秋～秋バージョン(Ver.1)」のために、2016年SBFで概要発表できるように企画調整をする。

2018年SBFでは「秋～秋バージョン」の熟成で参加者増を狙いつつ、30周年記念企画「二年跨ぎ企画」のさわりを発表する。そして年末に概要発表して、春需に合わせてPRする。

2019年SBFは地区大会、2020年SBFを決勝大会とする「春冬夏二年跨ぎバージョン(Ver.2)」は、47都道府県地区大会がメインの目標で、2019年SBFでのサイクリングサミット実現も目指します。

2020年SBFで発表するかも知れない二年跨ぎバージョンは、「春～冬：地方大会…春～夏：ブロック大会…秋：決勝大会」を想定しますが、春需を活用するなら二枚重ね運営の確立が条件となります。





## ご協力のお願い



⑧ルート「バイシクルグランズミーティング」を構成する「MTB6時間耐久レース」と「3種のマップリーディング」の想定内容です。

**MTB6時間耐久レース・・・** 自転車競技連盟公認のトーナメント大会にしなければ意味がありません。地区予選は準公認としても、ブロック大会や全国大会は、公正性の保てる計測システムやレギュレーションを導入し、スポンサー獲得も目指します。そのアイデアのひとつとして、予選ステージ4時間+決勝ステージ2時間の6時間耐久レース(仮称・オンザシックス)を提案します。

**3種のマップリーディング・・・** 欧米で認知されているツーリングコンペティションとして、中上級者向けに街道を走る「ブルベ」や、山道もルートにする「MTBラリーレイド」を紹介していますが、日本の道路事情に照らし合わせて時期尚早の面はあります。さらに、走行環境整備には日常利用者の共感が必要と考え、町の中をエリアにした「THT26◆自転車さんぽ」を提案しています。

⑧ルート「バイシクルグランズミーティング」は、シマノバイカーズ型総合イベントであり、そのノウハウをメーカー冠イベントで共有し、一方でE型サイクリングクラブの趣旨に賛同する仲間を探し、「春需でソフトを！」に至るためのサイクリングネットワークのベースを作るものです。

つきましては、前ページ囲み三段目までの下記項目にて、各方面のご理解ご協力を賜りたくご案内申し上げます次第です。

- 一、大会主催者様・・・ 将来的な地方予選を睨んだ情報交換を目的に、1年以内に実施の大会から代表チーム派遣をお願いします。尚エントリーフィー無料招待とします。
- 一、サイクリングクラブ主宰者様・・・ 3種のマップリーディングの運営や、E型サイクリングクラブに興味のある団体や個人からのご連絡をお待ちしています。
- 一、メーカー担当者様・・・ この⑧ルート全般にご理解ご協力をお願いします。プレシーズンに当たっては景品協力やブロック大会サポートをお願いします。
- 一、関連団体担当者様・・・ ⑧ルートはアタックキャンプまでの補給ルートです。山頂アタックは先になりますが、後援以上のバックアップをお願いします。
- 一、運営ノウハウ共同開発希望者様・・・ 耐久レースの計測システムやツーリングコンペティションの集計システム等の開発協力をお願いします。

※前ページ囲み四段目以降は、プレシーズンの企画調整の感触を見ながら、新たなタスクフォースを立ち上げて組み立てる予定です。

2015年5月00日

シマノバイカーズフェスティバル30周年記念企画の為に自転車走行環境整備の呼びかけ人／石丸英明

★主な企画相談先：日本自転車協会、日本サイクリング協会、自転車普及協会、株式会社シマノ、日本自転車環境整備機構、および自転車メーカー

